「すべての人へのあわれみ」

ローマ１１：２５－３２

堀田修一　２４・４・２８

Ⅰ　９章から延々と述べて来たイスラエルの救いの問題の結論部分

１.「兄弟たち。あなたがたが自分を知恵のある者と考えないようにするために、この奥義を知らずにいてほしくはありません。」：２５。「兄弟たち」とは、異邦人キリスト者。「自分を知恵のある者と考えないようにするためです」とは、自らの功績と努力によって神の民とされた、救われたと考え高慢にならないようにという意味。「奥義」とは、これまで秘められていたが今は現わされている神の御計画を示す。人間の知恵で判断しようとせずに、神の知恵である「奥義」「神の御計画」に心を留めるように促します。

２.「イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の時が来るまでであり、こうして、イスラエルはみな救われるのです」：２５，２６。神の奥義、御計画は、イスラエルと異邦人に対するものです。つまり「イスラエル人の一部が頑なになったのは異邦人の満ちる時（異邦人の救われる者の数が満ちることによって神のご計画が完成する時）が来るまでであり」：２５。イスラエル人に対する神の御計画が完成する時、すなわち救いに選ばれた「イスラエル（イスラエル共和国としてのイスラエルではなく、残された者として選ばれて主を信じるイスラエル人一人一人）はみな救われる」時が来ます。救われるイスラエルとは、「不信仰」（：２３）の中に居続けない人々のことです。私達も不信仰を捨て主を信じる時救われる。

３．このことをパウロは、自分の考えではなく、神のことばに基づいて確証します。「救い出す者がシオンから現われ、ヤコブから不敬虔を除き去る。これこそ、彼らと結ぶわたしの契約（イザヤ５９：２０、２１）、すなわち、わたしが彼らの罪を取り除く時である（エレミヤ３１：３１，３４）」と。特にイザヤ書からの引用は、今やキリスト（約束のメシヤ・救い主）が現れてイスラエルから不信仰を除き去るという神の主権的な救いの実現が強調されています。神は人々の不信仰を除き去ってくださるのです！感謝。

４.「彼ら（イスラエル人）」は、福音に関して言えば、あなたがたのゆえに（異邦人が福音の祝福にあずかり、神と和解するため）神に敵対している（心が頑なな）者ですが、選びに関して言えば、父祖たち（信仰義認の恵みに与ったアブラハム、イサク、ヤコブへの約束、契約）のゆえに神に愛されている者です」：２８。「神の賜物と召命は、取り消されることがないからです」；２９。神の賜物と召命（救いの選びと召し）は、取り消されることがなく、神が選ばれた残りの者であるイスラエル人は救われる。※私たち異邦人も。「神は、あらかじめ定めた人たちをさらに召し、召した人たちをさらに義と認め、義と認めた人たちにはさらに栄光をお与えになりました」８：３０。

Ⅱ　すべての人への神のあわれみ

１．「あなたがた（異邦人）は、かつては神に不従順でしたが、今は彼ら（イスラエル人）の不従順のゆえに、あわれみを受けています。」：３０。

２．「それと同じように、彼ら（イスラエル人）も今は、あなたがた（異邦人）の受けたあわれみのゆえに不従順になっていますが、それは、彼ら自身（イスラエル人）も今あわれみを受けるためです」：３１。

３．「神は、すべての人を不従順のうちに閉じ込めましたが、それはすべての人をあわれむためだったのです」：３２。つまり、イスラエル人であれ異邦人であれ、神はすべての人をあわれみ、救いたいと願っておられるのです→「神は、すべての人（イスラエル人と異邦人の差別なく）が救われて、真理を知るようになることを望んでおられます」（Ｉテモテ２：４）。これがパウロの結論であり、これこそが神の御計画、神の奥義です。

Ⅲ　まとめ、結び、私たちへの適用

１．「奥義」とは、人間に与り知れない神的な秘密の事。しかし、その奥義が、今や主の福音を通して、御聖霊により、私たちに現わされたということがパウロの確信（ローマ１６：２５）。そもそも偉大な創造者である神のみこころが人間に啓示されること自体、驚くべきこと。その様な偉大な神の口から出たみことばが、むなしく終わるはずがない（イザヤ５５：１１）。９章からのみことばでパウロが繰り返し聖書から引用してきたように、神のみことばは決して無効にならず（９：６）、しかも天や地の果てに探しに行く必要もないほど明確（１０：６－８）。それゆえ、ここでの「奥義」もまた、パウロだけが知っている秘密のことではなく、今や福音を通して明確にされた神の御計画の事です。

２．「イスラエルはみな救われる」というみことばを、イスラエル民族が一人残らず救われると解釈する人々がいます。しかし、そのような解釈の教えは、聖書のどこにも教えられていません。そもそも、もしパウロが、いずれイスラエル民族はみな救われると解釈していたなら、イスラエル人の多くが主を信じていないことに大きな悲しみ（９：２）を抱く必要はなかったでしょう。「イスラエルはみな救われる」とは、イスラエルの中で「神に選ばれた人々がみな主を信じて救われる」という意味です。正しい理解の為に次のみことばは大切です→「キリストにつくバプテスマを受けたあなたがたはみな、キリストを着たのです。ユダヤ（イスラエル）人もギリシャ人（異邦人）もなく、奴隷も自由人もなく、男も女もありません（差別されない）。あなたがたはみな、キリスト・イエスにあって一つだからです。あなたがたがキリストのものであれば、アブラハムの子孫であり、約束による相続人なのです」ガラテヤ３：２７－２９。「実に、キリストこそ私たちの平和です。キリストは私たち二つのもの（ユダヤ人と異邦人）を一つにし、ご自分の肉（十字架の贖い）において、隔ての壁（ユダヤ人と異邦人の隔て）である敵意を打ち壊し、こうしてキリストは、この二つのもの（ユダヤ人と異邦人）を一つのからだ（キリストに結び付く一つのからだなる教会）として、十字架によって神と和解させ、敵意（ユダヤ人と異邦人の）を十字架によって滅ぼされました」エペソ２：１４－１６。驚くべきことは、今もなお不従順であるイスラエル人の中で、国全体ではなく主を信じ救われる人が起こされるという恵みです。彼らは二千年も昔の「神に愛されている者」であり、「神の賜物と召命（救いの選び）は、取り

消されることがない」からです。何と義理堅い神でしょう。この神の誠実さは、ユダヤ人ではない私たちにも当てはまります。主を信じた私たちと神との関係は、私たちがどんな状況に陥ろうとも永遠に取り消されることはありません。感謝！

３．イスラエル人であれ異邦人であれ人は、真の神に対する不従順の中で罪の悲惨さや苦しみを経験して初めて、神のあわれみを知ります。それは落ちるところまで落ちて、人間としてみじめな状態になって初めて、父のもとに帰り、父の愛、あわれみを知った放蕩息子（ルカ１５：１１－２４）に似ています。証し。私たち人間は、どれほど高慢で、愚かなのでしょう。神が怒るのに早い方なら、全人類（イスラエル人も異邦人も）は、とっくに滅んでいるでしょう。しかし、神は驚くべき愛とあわれみの方です→「私たちがまだ罪人だったとき、キリストが私たちのために死なれたことによって、神は私たちに対するご自分の愛を明らかにしておられます」ローマ５：８。「私たちが滅び失せなかったのは、主の恵みによる。主のあわれみは尽きないからだ。それは朝ごとに新しい」哀歌３：２２，２３。

祈り：イスラエル人も異邦人の私たちも、全人類が神に愛され、主が全世界の人々の為に十字架で死に復活し罪の贖い、償いを完成してくださり感謝します。その救いを差し出しておられる神の深い深いあわれみを感謝します。神はすべての人を愛され、すべての人が救われる事を望んでおられる愛を知りイスラエル人も異邦人も戦争を止め、主を信じ、主にある一つのからだ、教会とされ、主を伝えて行くことができますように！